

家庭科における授業づくりのポイント

松元 瞳美

1 家庭科における主眼について

家庭科では、授業の主眼を二つの観点から書きます。一つ目は、内容【知識及び技能】です。二つ目は、その内容を捉えるための見方や活動【思考力、判断力、表現力等】を書きます。

○ 主眼の作り方の例

主眼1 ～（知識）が分かり、～（技能）することができるようにする。

2 ～場面において、～する活動を通して、～について話し合うことができるようにする。

【第5学年「食べて 元気に」の主眼の例】

① 題材で捉えさせたい内容を焦点化する。

学習指導要領解説書家庭編から、本題材で捉えさせたい内容を焦点化する。この時、他の学年や題材では何を捉えさせるのかを考慮し、内容を絞る。すると、本題材では、以下の内容を捉えさせることになる。

身に付けさせたい
知識及び技能

- (1) 食事の役割
 - ア 食事の役割が分かり、日常の食事の大切さと食事の仕方について理解すること。
- (2) 調理の基礎
 - （オ）伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解し、適切にできること。
- (3) 栄養を考えた食事
 - （ア）体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解すること。
 - （ア）食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせるとる必要があることを理解すること。

② 題材を構成し、1単位時間で捉えさせることを明確にする。

題材で捉えさせたい内容を教科書に書かれていることや解説書の説明から詳しくし、一時間で捉えさせたい内容を明らかにしていく。すると、本時の内容が明確になり主眼を立てることができる。

題材の導入：食事の役割 展開前半：米飯とみそ汁 展開後半：栄養 終末：イの調理の仕方の工夫	○展開前半：米飯とみそ汁 【米飯の調理】 ・米の洗いや、水加減、浸水時間、加熱の仕方、蒸らしなど炊飯に関する一連の操作や変化について理解し、できるようにする。	【みそ汁の調理】 ・だしのとおり方、中に入れる具の切り方や入れ方、みその香りを損なわない扱いなどを理解し、調理することができるようにする。 ・実は組み合わせて調理し、材料に応じて切り方を変えたり、火の通りにくいものから順に加熱したりするなどの工夫が発揚することを理解できるようにする。
--	--	---

主眼1

2 家庭科における題材指導計画について

家庭科では、題材を通して「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、課題を解決し、生活の中でも活用することができる知識及び技能を身に付けさせることが大切です。

学習指導要領解説書家庭編に例示されている学習過程を題材に当てはめると以下の様になる。

導入	展開	終末
見つける・気付く	わかる・できる	生かす・深める
・生活の中から問題を見いだす ・解決したい課題の設定	・生活に関わる知識及び技能の習得 ・解決方法の検討、計画 ・課題解決に向けた実践活動	・実践活動の評価 ・改善策の検討

題材の初め（導入段階）で設定した課題を解決していく過程（解決するための知識及び技能を習得したり、解決方法を検討・計画したり、解決に向けた実践活動）を通して、いつでもどこでも使える知識及び技能の習得を目指す。

3 家庭科における一単位時間の学習過程について

家庭科では、一単位時間においても子供自らが自分の生活の中から問題を見だし、課題を設定して、解決方法の検討と計画を行い、学校での実践的・体験的な活動及び家庭での実践を通して、課題を解決することができる学習過程を大事にします。

○ 一単位時間の学習過程（波線は、ICT活用）

段階	子供の活動	○教師の具体的支援		
導入	○ 前時までに学習したことや、これまでの生活経験からめあてについて話し合う。	○ 本時調べていく対象に目を向けさせるために、題材の導入で取材したときの様子を写真や動画で振り返る場を設定する。		
	<table border="1"> <tr> <td>・前時までの学習 ・生活経験</td> <td>本時の学習場面</td> </tr> </table>		・前時までの学習 ・生活経験	本時の学習場面
	・前時までの学習 ・生活経験		本時の学習場面	
～について調べよう。				
展開	○ 既習や生活経験を基に、設定しためあての解決方法を予想し、解決の見通しをもつ。	○ 見通しをもたせやすくするために、これまでもった見通しとこれまでの家庭での経験を交流する場を設定する。 ○ 解決方法を交流させるために、実践的・体験的な活動の結果や様子を写真や動画で保存したものを記録することができるフォルダを準備する。 ○ いつでも使える解決方法や特定の場面で効果的である解決方法に気付かせるために、「二つの解決方法の同じところと違うところは何ですか」と発問する。		
	<table border="1"> <tr> <td>・これまでの見通しの視点 ・生活経験からの予想</td> <td>・解決方法の予想 ・結果の見通し</td> </tr> </table>		・これまでの見通しの視点 ・生活経験からの予想	・解決方法の予想 ・結果の見通し
	・これまでの見通しの視点 ・生活経験からの予想		・解決方法の予想 ・結果の見通し	
	○ 実践的・体験的な活動を基に課題に対する解決方法について調べる。			
	実践的・体験的な活動			
	<table border="1"> <tr> <td>解決方法A</td> <td>解決方法B</td> </tr> </table>		解決方法A	解決方法B
解決方法A	解決方法B			
○ それぞれの解決方法を比較し、よりよい解決方法について話し合う。				
解決方法の交流				
<table border="1"> <tr> <td>解決方法A'</td> <td>解決方法B'</td> </tr> </table>	解決方法A'	解決方法B'		
解決方法A'	解決方法B'			
～は、□□するとよい。				
終末	○ 学習内容を振り返る。	○ 家庭での実践につなげさせるために、家庭で実践したいことを交流する場を設定する。		
	<table border="1"> <tr> <td>・学習を通して分かったこと ・学習したことで、家庭でも実践してみたいこと</td> </tr> </table>		・学習を通して分かったこと ・学習したことで、家庭でも実践してみたいこと	
・学習を通して分かったこと ・学習したことで、家庭でも実践してみたいこと				

4 家庭科におけるICTの活用について ※ ICTの活用は主眼達成の手立てであり、目的にならないように気を付けます。

家庭科では、主に以下のような使い方があります。

- 自分たちの家庭での生活と家庭科の学習をつなぐ。
- 計画と実践を記録し、実践を評価する。

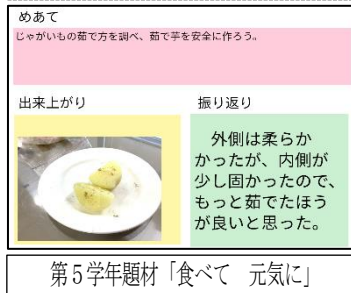
○ 家庭での実践を記録し、方法や工夫を学校で共有することでさらなる家庭実践につなげる。



□□さんの立てる方法が自分の家でも使えそうなので、してみたい。



○ 計画と実践を記録し、よりよくするための解決方法を考えたり、できるようになったことを確かめたりする。



もっとゆでる時間を長くしたら、全体に火が通ったゆでいもを作ることができそうだ。

